

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000064		
法人名	株式会社 ハートケア		
事業所名	グループホーム ハートケア明石		
所在地	兵庫県明石市上ノ丸2-6-31		
自己評価作成日	平成22年1月21日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2丁目2-14-703		
訪問調査日	平成22年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は、150程程歩けば明石公園があり、春は桜、夏には数十匹の亀が堀で甲羅干しをしている姿、秋には、菊花展・紅葉等四季を体感できる自然豊かな環境と、文化博物館や図書館等の文化的環境にも恵まれた場所に平成21年2月に新規オープンをしました。入居定員12名の少人数でアットホームな雰囲気です。一人ひとりの自尊心を大切に安らぎのある暮らしを支援しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元出身の職員の橋渡しにより、地域との交流がごく自然に展開されているのがこのホームの特長であり利点でもある。地域密着型サービス事業所の機能の一つとして、近隣に住む方々への知識の還元を含め介護情報の発信や相談等、その役割も着実に果たされている。家族やボランティアの訪問回数が多いホームでもある。職員は、「住み慣れた町でその人らしく暮らすこと(個人の生活の継続)」を大切にできるケアを心がけている。また、散歩・家事・園芸等も日常生活リハビリとして日課にしており、ちぎり絵や短歌等の趣味活動を通じて利用者の社会参加も支援している。(作品展の開催やNHK介護百人一首への投稿)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、運営理念及び方針等に基づき、地域と連携した運営の実践に取り組んでいる。	地域の方との連携により、H21.11月上旬の丸公民館にて利用者の作品展(ちぎり絵)を開催している。地域密着型サービスとして、認知症ケアの啓発の取り組みをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時など、子供や近隣の人達に気軽に声をかけたり、挨拶をするなどで交流している。又、地域行事に参加する等日常的に交流を深めていくよう努めている。	地域住民の一員として、ミニ公園の清掃に利用者職員が参加している。ひなまつり・運動会・七夕まつりなどに参加し地域の方との交流を深めている。	地域の認知症ケアの拠り所として、介護相談窓口の今後の活動が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の協力により公民館での作品展や家族・地域住民の参加を得て認知症の学習会を開催し、認知症の人の理解や支援のあり方について共に学び合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの運営方針・利用者状況・サービスの現状報告等話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、会議を開催している。利用者の普段の作品を地域の公民館で展示し、地域交流の機会と利用者の意欲向上を目指した取り組みにしたいという意見が出て、展示会開催に繋がった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、日頃からグループホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えたり、研修参加・介護相談員の受け入れ等積極的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	社会福祉協議会の協力によりグループホーム連絡会が発足している。H22年より毎月1回の介護相談員の訪問が始まっている。	介護相談員とより連携できるように、連絡ノートを作成し情報交換を願いたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践するため、管理者と全職員が「身体拘束の研修会」に参加して身体拘束の弊害を正しく認識して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体研修に管理者と職員が参加し、伝達研修を行っている。日常生活の中で起こる可能性のある身体拘束について話しあい、防止に努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、「高齢者虐待防止関連法」についての研修に参加し、虐待を見逃さない注意を払い、防止に努めている。	利用者の尊厳や自己決定を尊重するケアを実践することで、事業所内での虐待の防止に努めている。地域での高齢者虐待を防止するために地域包括支援センターと連携している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての研修会に参加し理解を深めてそれらを活用できるよう支援していく。	家族が成年後見申立てができるように、診断書や調査の協力をしている。家族が後見活動を円滑におこなえるように支援している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については、十分時間をとり、理解・納得をしていただけるよう説明して、不明な点については何時でも相談を受けられるように取り組んでいる。	契約についての疑問点については、家族等が納得されるまで説明している。要望があれば、事前に契約書類を送付している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口に、意見・要望受付場所を設けたり、職員会議・運営推進会議・家族会等において内容・課題等を話し合い、それらを運営に反映している。	家族の訪問時を利用して、聴取した要望や運営推進会議で頂いた意見を運営に活かしている。	今後も家族向け学習会や地域の方を含めた交流会の開催を期待しています。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議や主任会議、職員会議等で運営について意見や要望を聞く機会を設け、そこでの意見を検討し、運営に反映している。	朝の申し送り時、職員に意見を訊いている。クリスマスケーキを利用者と一緒手作りしたり、足浴の実施、手摺りの取付位置の変更等、積極的に職員の提案を検討し、サービス向上に繋げている。	代表者は、職員の意見や提案を聴くために、「定期的な職員との個別面談」を予定している。より、利用者の立場にたった運営を期待しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、面接・相談の機会を設け、職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりに法人内外の職員研修を受ける機会を設け、職員育成に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ハートケアのグループホーム3施設での連携を取り、各施設の運営上の課題や情報交換をしながらサービスの質の向上を目指している。今後、市内にグループホーム連絡会が出来れば参加し情報・意見交換してより良いサービスの質の向上図ってゆきたい。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや、要望・不安等を受け止め、本人の気持ちを大切にし環境の変化に十分配慮しながら、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までの過程、入所後の要望等を確認し家族等とのコミュニケーションを持ち信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にアセスメントをしっかり行い、何が必要かを見極めサービスを導入するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ち意見を尊重し、一方的な関係にならないよう利用者と、職員が共に生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一方的な意見の押し付けはせず、家族の言葉に耳を傾け利用者と家族の関係を大切にしながら一緒に利用者を支えられるよう努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら友人・知人との外出・面会等で、関係が途切れないよう支援に努めている。	利用者が家族と馴染みの喫茶店に出掛けたり、月1回は元同僚と食事ができるように等の支援の実践がある。家族や友人が訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要に応じ職員がクッション的役割を果たし利用者同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族に電話して利用者の状態・安否を確認して、家族・本人との関係を継続した取り組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを大切に、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の立場にたって検討している。	生活歴を把握し、失った自信を回復できるように支援している。散歩時や入浴時等、1対1で関わる時間を大切にして利用者の表情や言葉から真意を汲み取れるようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴やこれまでの日常生活、サービス利用の経過等を把握し日々のケアに取り組んでいる。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームでの一日の生活状況、心身の状態、残存能力等現状の把握に努め、日々のケアに取り組んでいる。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題とケアのあり方について、職員カンファレンスや本人・家族と話し合いそれぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	ふだんの生活の中での利用者の声を介護計画に反映できるように、利用者との会話を大切にしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議やミーティング等で情報の共有化を図り、ケース記録や情報を共有し実践や介護計画の見直しに反映している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所のコミュニティ施設やデイサービス等で交流を持って、様々なニーズに柔軟に対応していく。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力で、大正琴の演奏会を2か月に一回レクリエーション活動の取り組みとして実施し、日々の暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を受け止め、体調不良時には、かかりつけ医や病院受診出来るよう支援している。	協力医療機関による月2回の往診がある。利用者や家族が希望するかかりつけ医や認知症専門病院への受診は、家族と同行できるように協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時や電話連絡で利用者の体調変化について、相談したりかかりつけ医と連携をとり利用者の日常の健康管理に心掛け支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療出来るように、又出来るだけ早期に退院出来るように病院関係者との情報交換や相談に努めている。	協力医療機関とは、家族の希望があれば、入院できるように支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて利用者や家族の意向やかかりつけ医と連携を密にし、ホーム側と協力・共同して最後まで安心して暮らしていけるよう支援に努めている。	看取りについては、家族やかかりつけ医と相談しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や初期対応に備えて、全ての職員に応急手当や心肺蘇生等の研修会を実施し実践力を身に付けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・避難訓練等利用者と共に実施し、安全な生活が送れるよう努めている。今後、地域との協力体制の下で避難訓練等の実施を検討していく。	消防署の定期訓練を実施している。災害時に地域消防団の協力を得られるように要請している。	災害時の利用者の救援体制について、運営推進会議でも検討の機会を設け、整備されることを期待します。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を大切に、きめつけの言葉や呼びかけなどに配慮し対応に心がけている。	自尊心に配慮し、否定的な声掛けはせず、利用者が納得できるように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望の表出を受け止め、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ち・意志を大切に、無理強いしないように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ・おしゃれが出来るように、声かけ・見守りを支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を見極め出来るだけ一緒に準備できるよう努めている。	利用者に献立を説明して、調理方法を教えてもらったりもしている。毎週日曜日はリクエストメニューにして献立作りから調理まで協働している。庭で収穫したしそでジュース作りも協働している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分量を日々記録し状況把握に努めている。食べ物の偏食やアレルギー、咀嚼力等も考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に合わせて毎食後口腔ケアの実施を促し、特に就寝時は義歯洗浄の消毒を徹底している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄状態を記入し、排泄のサイクル習慣を把握して一人ひとりの能力に合わせた排泄の自立支援をしている。	排泄表を作成し、排泄の自立にむけて声掛けをしたり、夜間のみポータブルトイレを利用してもらう等、一人ひとりに合った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応のために毎朝起床後牛乳を飲用したり、体操、散歩等で腸の働きを促すよう取り組んでいる。便秘の強い症状の有る場合は、主治医に相談し薬を処方してもらっている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースに合わせ、楽しく入浴できるように支援している。入浴日は決まっているが、利用者の状況に合わせて入浴できるよう支援している。	季節湯を楽しんでもらったり、足浴を支援してリフレッシュしてもらっている。また、入浴時のコミュニケーションを大切に、ケアに繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々のペースに合わせ、一時間程度の休息をとったり、レクリエーションすることで安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法等を理解し、変化が見られたときは、かかりつけ医に連絡相談し対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般家事やおやつ作り、趣味活動等楽しみ気分転換できるよう支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には近隣公園や明石公園等に出かけるよう支援している。又、友人・家族等との協力でレストラン・喫茶店等に気軽に出かけられる機会をつくり支援している。	法人内グループホームの合同の行事参加や、苗茂展、菊花展、明石公園への外出、また、フランス料理店へ外食に出かけたり等、楽しみごとが多い。法事や墓参り等も家族と一緒に出かけることができるように支援している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の力量に合わせ、お金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話したり電話のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	より良い共用空間づくりとして、食堂やリビングは日中全員が集まる憩いの場とし、廊下・壁面には、利用者の作品や季節感を採り入れ、交流の場や刺激の場として配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	日中は、リビングでの作品づくりや、おしゃべりをして過ごされる等、利用者個々が、好きなように時間を過ごしてもらえるように配慮している。ホームの造りが家庭的な設えなので、程良い空間の活用がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでテレビを観たり気の合った者同士で会話出来るようにくつろぎの場を工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使いなれた生活用具や好みの物を持ち込み居心地よく生活できるよう工夫している。	利用者や家族と相談しながら、仏壇や使い慣れた家具、日曜大工道具等、持参されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室には、表札をつけて利用者が混乱や失敗をしないよう配慮している。		